

# 議題1 平成30年度決算について

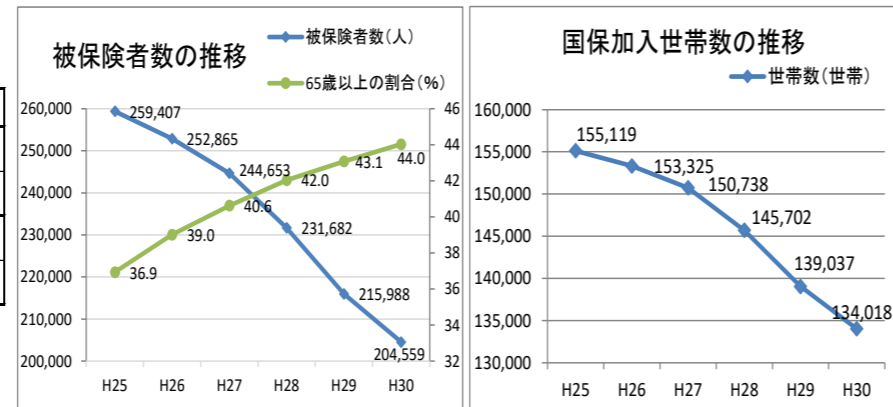
# 資料1

## 1 国民健康保険事業の概要

### (1) 加入者について

高齢者、低所得者が多い。

	H30	備考
被保険者数(人)	204,559	市人口の21%(昨年度より1P減)
うち65歳以上	90,066	被保険者数の44%(昨年度より1P増)
世帯数(世帯)	134,018	市世帯数の29%(昨年度より2P減)
うち所得200万以下	90,730	被保険世帯数の68%(昨年度より3P減)

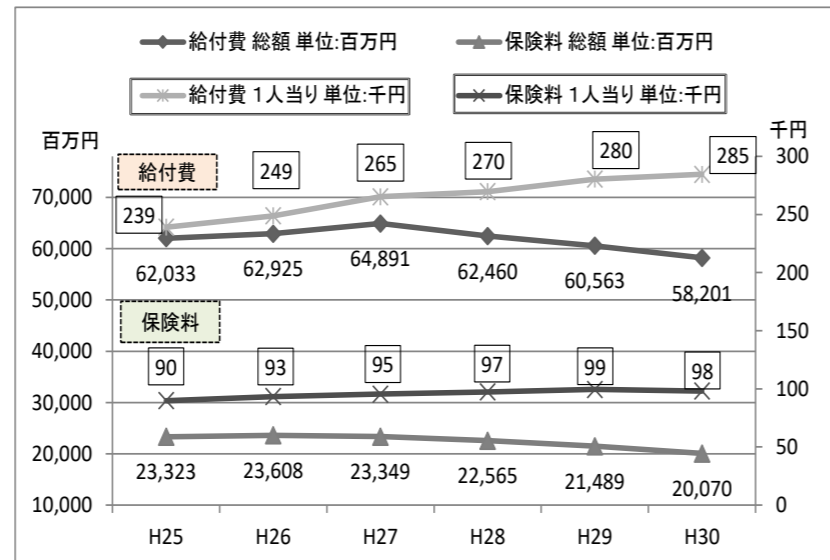


### (2) 給付費と保険料収入の状況

被保険者数の減により、給付費総額、保険料総額は減少傾向にある。しかし、高齢化や医療の高度化により、1人当たり給付費が増加し、その給付費を賄うための1人当たり保険料も増加傾向にある。

年度	給付費		保険料	
	総額 単位:百万円	1人当り 単位:千円	総額 単位:百万円	1人当り 単位:千円
H25	62,033	239	23,323	90
H26	62,925	249	23,608	93
H27	64,891	265	23,349	95
H28	62,460	270	22,565	97
H29	60,563	280	21,489	99
H30	58,201	285	20,070	98

※給付費：審査支払手数料を除く保険給付費の決算額  
 保険料：現年分調定額における決算額（医・支・介）



## 2 平成30年度決算について

### (1) 収支状況

・単年度収支・・・6.3億円の黒字

(主な要因)

・広域化に伴い拡充された公費の内、徴収対策や給付事務等の適正化などにより、保険者努力支援制度分の交付金が当初の見込みを3.3億円上回ったほか、保険給付費に対して県から交付される保険給付費等交付金が、1.4億円超過交付されたことなどによる。

なお、超過交付の理由は、交付対象経費が確定する前に県が交付額を確定させる仕組みであることから、差が生じたためである。

(黒字について)

- ・黒字については、繰越金として令和元年度の歳入に組み入れる。
- ・黒字のうち、保険給付費等交付金の超過交付分1.4億円については、今年度減額となるためその財源に充てる。
- ・4.9億円については、国民健康保険の財政運営に活用するための基金を創設し、その原資として積み立てる。

### (2) 収支の推移

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
法定外繰入金	35.6	40.3	1.0	4.6	36.2	22.3	40.0	37.0	38.6	38.4	50.0	16.2
単年度収支	△ 2.7	△ 15.8	△ 56.8	△ 44.3	1.5	1.7	17.3	14.3	7.9	21.6	55.2	6.3
累積赤字	△ 2.7	△ 18.5	△ 75.2	△ 119.5	△ 118.0	△ 116.3	△ 98.9	△ 84.7	△ 76.8	△ 55.2	0	0

### (3) 歳入歳出の状況

区分	歳入			歳出			
	H30予算(A)	H30決算(B)	増減(B)-(A)	H30予算(A)	H30決算(B)	増減(B)-(A)	
保険料	197.4	195.0	△ 2.4				
国庫支出金	0.0	0.2	0.2	事務費	12.6	11.1	△ 1.5
療養給付費等交付金	0.0	0.7	0.7	保険給付費	654.2	583.3	△ 70.9
県支出金	659.4	593.9	△ 65.5	国民健康保険事業費納付金	247.4	247.4	0.0
繰入金	76.4	73.4	△ 3.0	保健事業	9.0	6.9	△ 2.1
うち法定外分	(17.2)	(16.2)	(△ 1.0)	その他(共同事業拠出金、諸支出金、予備費等)	12.1	11.4	△ 0.7
その他(諸収入、繰越金)	2.1	3.2	1.1	合計	935.3	860.1	△ 75.2
合計	935.3	866.4	△ 68.9				

### (4) 歳入歳出の増減状況(対予算)

#### 【歳入】

- ・保険料 △2.4億円  
 後期高齢者医療制度への移行による国保被保険者数の減  
 ※収納率 現年：91.5%(前年度比0.7P増) 過年：22.3%(前年度比2.0P増)
- ・県支出金 △65.5億円  
 保険給付費の減に伴う保険給付費等交付金の減 [△68.8億円]  
 保険者努力支援等の増 [3.3億円]

#### 【歳出】

- ・保険給付費 △70.9億円  
 1人当たり給付費及び被保険者数が見込よりも減少

### (5) 平成30年度における新規・拡充事業の状況

#### 【保険料の徴収対策】

- ・インターネット公売 2件 <新規>
- ・滞納整理指導員の増員 1人→2人 <拡充>
- ・口座振替受付端末の更新・増設 19台→26台 <拡充>

#### 【保健事業】

- ・高齢者の低栄養防止 519件 <新規>

#### 【医療費適正化】

- ・医療機関を受診した全被保険者に、給付内容が確認できる医療費通知を送付 <拡充>

## 3 総括

平成30年度決算では、広域化に伴い拡充された公費の内、徴収対策や給付事務等の適正化などにより、保険者努力支援制度分の交付金が当初の見込みを3.3億円上回ったほか、保険給付費等交付金が1.4億円超過交付されたことなどにより、6.3億円の黒字を確保した。

この黒字のうちの4.9億円を、国民健康保険の財政運営に活用するための基金の原資として積み立てる。

また、今後も高齢化や医療の高度化により1人当たり給付費や保険料の増加が見込まれることから、第3期アクションプランの歳入確保及び歳出抑制の取組みを推進し、収支不足の生じることのないよう、国保財政の基盤を盤石なものとしていく。